

保育行政

保育所途中入所

こんな受入体制でいいのか

全保育所へ赴き確認し対応する／町長



しもむら かつゆき 議員
下村 勝幸

問

現在黒潮町では、途中入所の乳幼児の受け入れに際しては、その時点での実年齢をもとに組分けが行なわれている。保育士の割り当ては国の基準をベースにしているが、この場合、本当は同じ組になるべき子どもが、保育所の都合で上や下の学年の子どもと同じ組になる事象が発生している。現にくじら保育所の場合、一つの年度で上下する幼児が発生した。

子どもの教育上、誰が考え

ても許されるべき事ではなく、子どもを基本にした組分けをすべきと考える。このやり方を早急に改め、行政本位ではなく子ども本位の保育所受入体制を構築すべきと思う。子どものことを、まず第一に考える黒潮町になるためにも、早急に改善すべきと思うがどうか。

答

下村町長

矢野健康福祉課長

途中入所の場合、完全な年齢別保育の現状は無く、2年齢混合保育が多く、保育所で行われている。その場合、誕生日の早い幼児を上組に入所させる現状がある。これの解消のためには、4月の職員配置時点で、低年齢の組には若干の余裕を持たせた職員配

置にするか、基準の定員枠を超えた場合は、臨時職員の雇用で対応するしかない。現在は、十分な実態把握が出来ていないので、町長自らが各保育所へ赴き、現在の状況を確認したい。そして、子どもの事を十分に考え、可能な限り改善をする方向で検討したい。



くじら保育所参観日の風景

機構改革

次年度からの組織再編 町長のねらいは

飛躍のための機構改革

／町長

問

今議会で提案されている機構改革に伴う、組織改編のねらいは何か。

またこの組織改編を行った場合、今後黒潮町がどこに力を入れ、それによって、町民が明るく具体的な未来像を描けるものになるのか。

答

下村町長

現在、黒潮町の基幹産業である一次産業の低迷が続いている。

これを打破し、この一次産業の活性化を図るために、大方庁舎に農業部門、佐賀庁舎に漁業林業部門を一元化するよう組織を配置した。これにより、各種の事業や問題を尖鋭的に取り扱う部門にしたいと考えている。また、黒潮町の産品を掘り起こし、付加価値を付けて売り出していくために、新たに産業推進室を設けた。

この黒潮町の恵まれた土地や農産物、松原や砂浜を中心とした自然、町内に整備されているスポーツ施設、これら黒潮町に現在あるものを目玉にしなが、合併してこまで仕込んできたものを、次の段階ではより具体的な取り組みにし、黒潮町を飛躍させた